

茎枯病抵抗性のアスパラガス新品種「あすたま」を育成 ―茎枯病発生ほ場でも高収量が見込める革新的な抵抗性品種―

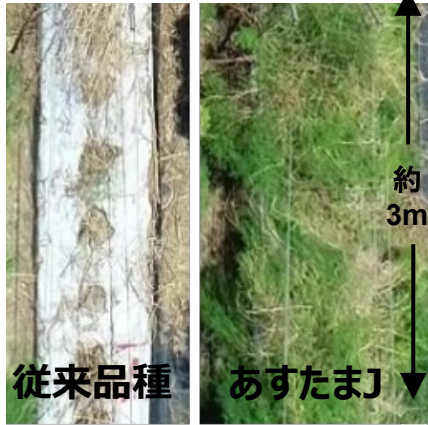
- ・アスパラガスは多年草で10年以上栽培されるため、難防除病害である茎枯病の発生はその後の安定的生産の持続に大きな影響を及ぼす。
- ・農研機構、香川県、東北大学及び九州大学が、アスパラガス新品種「あすたま」を育成。
- ・茎枯病に対して、既存の品種の中では類のない高い抵抗性を有する。
- ・そのため、国内のアスパラガスの露地栽培に飛躍的な収量向上をもたらす品種として期待。
- ・2028年をめどに種苗の提供を始める予定。

研究機関：農研機構、香川県、東北大学、九州大学



茎枯病の発生状況

上空からの撮影



従来品種

あすたま

殺菌剤無散布条件下の露地畑での品種比較の例



新品種「あすたま」の収穫物
 揃った若茎(わかき)が沢山取れる

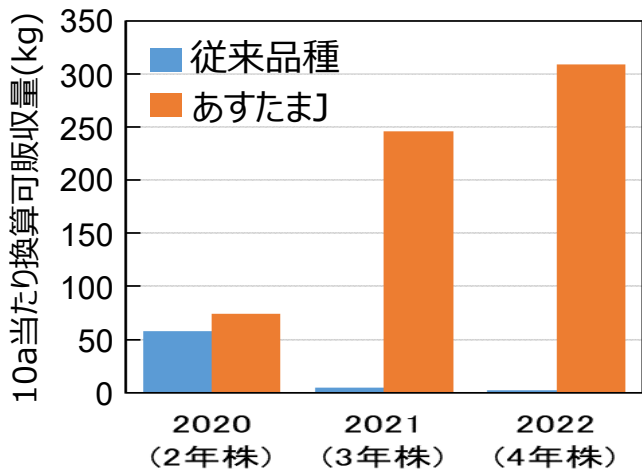


新品種「あすたま」の茎の太さ
 左：あすたま

従来品種より食用部分となる
 揃った細い若茎を多く確保

右：従来品種

(資料：農研機構提供)



殺菌剤無散布条件下の暖地の露地畑での春どり栽培における収量の例

導入により期待される効果

「あすたま」は、難防除病害であるアスパラガス茎枯病に対して、既存のアスパラガス品種の中では類のない抵抗性を有することから、国内のアスパラガスの露地栽培に飛躍的な収量向上と安定的生産の持続の両立をもたらす品種として期待される。